

令和8年度 全国学力・学習状況調査結果〈利府町〉について

令和8年4月に実施した小学6年生と中学3年生を対象とした全国学力・学習状況調査の結果の概要についてお知らせします。本調査は、小学6年生(国語・算数)および中学3年生(国語・数学・英語)を対象として、「教科に関する調査」と「生活習慣や学習状況等に関する質問調査」を実施する構成となっています。

結果について、平均正答率で見ると、小学校の国語と算数についてはいずれも全国を上回ったものの、中学校については、国語、数学、英語(3技能)ともに全国を下回る結果となりました。

質問調査では、ICT機器の活用、読書、地域への貢献、表現力などについて、肯定的な結果となっています。また、主体的な学びの姿勢についても、中学校でより肯定的な結果となっています。一方、小・中学校ともに自己肯定感の醸成や家庭学習の時間が課題となる結果となりました。

本調査の結果等を踏まえ、引き続き、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善や家庭学習の働きかけ等を進め、学力の向上を図るとともに、豊かな人間性の育成につながるよう努めてまいります。

(1) 教科に関する調査の結果

※宮城県の場合は仙台市を含む



①【小学校】平均正答率 6校(332人)

全国比較	国語		算数	
全国(公立)	61	基準	56	基準
利府町教育委員会	63	+2	57	+1
宮城県(仙台市含む)	58	-3	54	-2

②【中学校】平均正答率 3校(328人)

全国比較	国語		数学		英語(3技能)※	
全国(公立)	64	基準	57	基準	499	基準
利府町教育委員会	63	-1	52	-5	479	-20
宮城県(仙台市含む)	64	0	55	-2	489	-10

※英語3技能(聞くこと・読むこと・書くこと)はCBTで実施し、IRT(項目反応理論)に基づき算出したスコアを表示している。

CBT：問題の提示から解答までのすべての過程をコンピュータを用いて行う試験方式

IRT(項目反応理論)：受験者の学力と問題の難易度を統計的に測定し、テストの回や問題が異なっても「公平な能力値」を算出するテスト理論

(2) 生活習慣や学習状況等に関する質問調査の結果

※一部抜粋



「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」などの肯定的な回答の割合

+ 全国値を上回っている - 全国値を下回っている ○ 全国値とほぼ同じ

質問内容	小6	中3
自分には、よいところがある	-	-
将来の夢や希望をもっている	-	-
人の役に立つ人間になりたい	○	○
分からないことや知りたいことがあるとき自分で学び方を考え、工夫している	-	+
学校の授業以外、平日に毎日「1時間以上勉強する」	-	-
学校の授業以外、平日に(1時間以上)勉強するときICT機器を1時間以上使う	+	+
学校の授業以外、普段1日あたり30分以上読書をしている	-	-
家にはおおよそどれくらい本があるか(101～200冊、201～500冊)	-	-
地域や社会をよくするために何かしたいと思っている	+	+
授業で自分の考えを発表する機会では自分の考えがうまく伝わるよう工夫している	+	+
課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる	-	+
各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っている	○	+
授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり生かしたりしている	-	+